

プロフィール

「制作の理由の一部（実際は大部分）は、これまでに見たことがないものを見ること、すなわち何か十分に理解できないものや説明できないものを創作することである」

ケン・イーストマンは1960年英国のハートフォードシャー州に生まれ、エジンバラ芸術大学(1979-83)とロンドン王立芸術大学(1984-87)で学ぶ。作品を広く国際的に発表し、ファエンツァ国際陶芸展(1995年イタリア)で「プレミオ・ファエンツァ（最高賞）」、第1回世界陶磁器博覧会2001韓国で「金メダル」、第5回マニセス国際陶芸ビエンナーレ（スペイン）で「プレジデント・デ・ラ・ジェネラリタ・バレンシア」を受賞するなど陶芸分野で数々の著名な賞を受賞する。また、1998年と1999年には、アーツ・ファンデーション・フェローシップの陶芸部門賞を受賞。

彼の作品は、滋賀県立陶芸の森(日本)、ヒューストン美術館（米国）、モントリオール装飾美術館（カナダ）、パワーハウス美術館（シドニー、オーストラリア）、ボイマンス・ファン・ペーニンゲン美術館（ロッテルダム、オランダ）、ランダース美術館（シュトゥットガルト、ドイツ）、マニセス陶器博物館（バレンシア、スペイン）、ビクトリア・アルバート美術館（ロンドン、英国）など数多くの美術館に収蔵されている。

彼の作品の核となるのは、器に対する考えである。器を題材にして、表現に意味を持たせ、表現を形にする。陶器を媒体として取り組むことで、イーストマンは、建築家と画家の両方になれる。つまり、色調や色の探求のみならず、形や構造も操ることができるのである。

アリソン・ブリットンはその作品について、

「イーストマンのつぼの形をした作品は、機能を全く気に掛けず、抽象性を高め、形や表面の両方で遊び心を取り入れる一貫した道を歩んでいる。それは陶磁器が特別である可能性を秘めていることである。体と衣服、彫刻と彩色は本質的に結びつけることができる。絵付けはイーストマンにとっていつでも強みであり、自分の作品の切り立った壁の上では抒情的になれる。絵筆を動かすしぐさは滑らかで官能的、彩色は濃厚で落ち着きがある」

ケン・イーストマンは英国の陶磁器メーカー、ロイヤルクラウンダービーの製品のデザインも行っている。彼は自分のスタジオで新しい形状のシリーズをデザインし、ロイヤルクラウンダービーがその刺激的なフォルムをボーンチャイナで再現できる方法を見いだした。ダービー工場の資料室に保管されていたオリジナルのパターン原稿に取り組んだイーストマンは、その素晴らしいオリジナリティと色彩や構図の感覚に心を奪われた。彼は古典的なイマリ様式を再解釈し、現在、丈夫で新しい製品の表面にそのパターンは再現されている。2009年に新シリーズは生産を開始し、世界中で発売された。

さらに、イーストマンはスタジオでの作業のみならず、英国の数多くの大学やカレッジで講義を行っており、現在はグラスゴー芸術大学（スコットランド）の特任講師を務めている。イーストマンの作品の発展についてのモノグラフ、「**Ken Eastman, Behind the Gates of Clay**」は、2004年ロンドンのバレット・マーズデンギャラリーより出版された。ジェーン・マッケイブによって書かれたこの分析的なエッセーで

は、イーストマンの作品で繰り返し用いられるテーマや彼の陶磁器製作の取り組みを探求している。イーストマンは、2003 年国際陶芸アカデミーの会員に選出された。

イーストマンは視覚的に力強いフォルムを制作するだけでなく、総じて現代の陶磁器の概念的性質に大いに貢献している。

© Glen Brown 2005